



名古屋の偉人伝

No. 1 1

人見璣邑(ひとみきゆう)の巻

ここがスゴイ!

九代藩主徳川宗睦むねちかのもと、宗春以来の財政の行きづまりを克服、農村の荒廃を立て直した「天明の改革」の推進者の一人。藩校明倫堂の設立にも関わった。



『露竹齋筐中書』より、
細野要齋自筆

こんな人生を送ってきました(経歴)

享保 14(1729)年 10 月 24 日生(諸説あり)～寛政 9(1797)年 2 月 2 日没。

幕府の儒学者人見靖安の次男として江戸四谷で生まれる。尾張藩に仕官した叔父貞安の養子となり、寛延 3(1750)年、後に九代藩主となる徳川宗睦の近侍を勤めた。宗睦が藩主となった後も世継ぎの教育を担当していたが、安永 4(1775)年に教育担当から実際に藩政を担当する国用人となる。

治水を掌り、新川を掘り下げ、庄内川を分注して農田に利用した。農政改革を行い、旧来城下に詰めていた代官を駐在制にし、問題になっていた役人の不正を防いだ。巡察をよくし、天明の大飢饉では被災者の救済に力を尽くした。細井平洲を呼び寄せ共に藩校明倫堂の基礎を固め、『群書治要』の校刊にも携わる。天明 5(1785)年病を得て職を辞したものの再度起用され、世継ぎの補佐をしたが 2 年後に引退、69 歳で亡くなった。

もっとくわしく知りたいあなたに(参考文献)

『名古屋市史 第 11』(名古屋市／編 愛知県郷土資料刊行会 1980 年)

『新修名古屋市史 第 4 巻』(新修名古屋市史編纂委員会／編 名古屋市 1999 年)

『人見璣邑』(堀川柳人／編 安藤次郎 1939 年)

『幕藩制社会における国学』(岸野俊彦／著 校倉書房 1998 年)

『新編愛知県偉人伝』(愛知県教育会／共編 川瀬書店 1934 年)

『細井平洲先生とその師友点描』

(東海市立平洲記念館／編 東海市立平洲記念館 1976 年)